

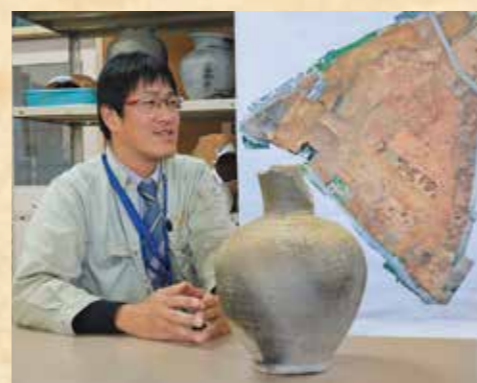
発掘!

鳥ノ上遺跡

現在、博物館で行われている冬期企画展では、奈良・平安時代に柏原地区にあった鳥ノ上遺跡を中心に、市内で発掘された出土品などを紹介しています。今月は過去に行われた発掘調査の結果から見えてきた当時の様子についてお伝えします。

「遺跡から狭山の奈良・平安時代の暮らしが浮かび上がってきます」

鳥ノ上遺跡は8世紀初頭から10世紀初頭までの200年ほどの期間に営まれた集落です。同時期の狭山市内では40以上もの集落が確認されています。中でも鳥ノ上遺跡は入間川左岸の河岸段丘の最も高い場所に位置しています。入間川との比高差は15m程。水を避けることができ、生活を



発掘調査に携わっていた社会教育課・三ツ木主査に聞きました

めの川へのアクセスも比較的容易な場所として選んではいたと考えられています。

昭和56年～58年に実施した調査で遺跡に認定された地域を開発する場合、その土地の事前調査を行うことになっています。鳥ノ上遺跡第3次調査は、狭山工業団地の拡張に伴い平成30年～令和2年に行われ、ここで調査区域の全容が明らかになりました。

約8万㎡に及ぶ発掘調査の結果、住居跡177軒、掘立柱建物跡93棟、溝跡13条、多数の土壙などが発見されました。住居跡には当時使用された土器が残っていて、この土器の年代から建物のおおよその年代が特定されました。



狭山の奈良・平安時代の主な遺跡(埋蔵文化財包蔵地図)

どんな集落だったの?

文献でこの遺跡に関する記述は見つかっていませんが、地理的な要因、歴史的な背景、発掘調査から得られた情報を基に、以下のことが見えてきました。

- 地理的な要因**
- 近くに入間川がある
 - 東山道武蔵道が近くを通っている
 - 鉄製品の馬具が出土している
- ⇒交通の要所だった?

- 歴史的な背景**
- 集落の形成から廃絶までの期間が、高麗郡建郡に合わせた渡来人たちの移住や東金子窯跡群*が運営される時期と一致している
 - 国分寺建立の詔や武蔵国分寺の七重塔再建時期と集落の隆盛が一致している
- *加治丘陵(入間市)に分布する瓦・須恵器の窯跡群

- 発掘調査から**
- 掘立柱建物跡が通常の集落よりも多い
 - 出土している鉄鏃が大型であり、狩猟用でなく戦闘用だと考えられる
- ⇒掘立柱建物跡は物資集積用倉庫として使われていた?

- 東金子窯跡群で製造された瓦などの資材を集積し、各地へ配送するための物資集積所?
- 東金子窯跡群の運営に必要な燃料である木材の伐採所?

考古学では、確実な正解を見つけることは困難ですが、地中から出てきた遺構・遺物からさまざまな可能性を推察することができます。今後調査・研究が進むことで当時の暮らしが明らかになっていくことでしょう。

問合せ 社会教育課へ内線5674

どんな土器が出土されたの?

水などの貯蔵に使用された須恵器^{*1}の甕、食器類(坏、皿、蓋)、火にかけて調理に使われた土師器^{*2}の甕などが出土しています。中でも須恵器の薬壺、香炉の蓋などは珍しいものとされています。

*1 窯を使って1,000度以上の高い温度で焼かれた土器。青灰色で硬質
*2 野焼きで焼かれた土器。茶褐色でやや軟質



鳥ノ上遺跡から出土した土器(画像提供:狭山市立博物館)

どんな住居や建物があったの?

竪穴住居

当時の一般的な住居。約4m四方の広さで、地面を50cm以上掘り下げ、壁に沿って浅い溝が掘られている。



住居跡(8世紀後半)

掘立柱建物

地面に穴を掘り、柱を穴に埋めて建てられた建物。鳥ノ上遺跡では居住用ではなく、倉庫のような物資を集積するために使われていたと考えられている。



掘立柱建物跡(8世紀後半～9世紀初頭)



鳥ノ上遺跡第3次調査調査区の写真(合成)

狭山市立博物館 冬期企画展

ひろ 拓くひとびと -狭山の奈良・平安-

会期 2月26日(日)まで
開館時間 9時～17時(最終入場16時30分)
休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館)
料金 一般150円、高大生100円、中学生以下無料

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
11 気候変動に具体的な対策を
17 パートナリシップで目標を達成しよう

SDGsの関連アイコンを特集ページに標記しています